

講演要旨・講師プロフィール

テーマ 「居着かずに動く」

～床を蹴らずに動く武術的身体操作によってスポーツ常識を変える～

講師プロフィール



甲野善紀（こうの よしのり）氏

1949年東京生まれ。武術研究者。

1978年に松聲館を設立し、独自の武術研究の道に入る。その研究がスポーツや楽器演奏、介護、教育の分野から注目され、日本各地のみならず海外からも指導を依頼されている。2007年から3年間、神戸女学院大学客員教授も務めた。

著書に「表の体育 裏の体育」「剣の精神誌」「武道から武術へ」、共著に「古武術の発見」（養老孟司）等多数。

講演要旨

サッカー選手やバスケットボール選手との競り合いを制して走り抜ける、体重140キログラムの十両力士を崩す、プロボクサーが払うことができないパンチを入れる……一般的に広く知られている身体運用とは、まったく異なる動きをする武術研究者の甲野善紀氏。日本の武術をベースにした、床を蹴らず、身体を捻らず、溜めを作らない身体操作法は、12年前、読売ジャイアンツの桑田真澄選手を、セ・リーグの最小防御率の活躍に導いたことを始め、卓球の平野速早矢香選手、バスケットボールの小磯（浜口）典子選手、桐朋高校のバスケットボール部など多くのスポーツ選手が、その指導を受け、成果を発揮してきました。その他、ラグビー、アマレス、剣道、柔道、さらには医療介護、演劇、楽器演奏にも、大きな影響を与えています。

およそ現在の常識とは異なる動きの数々は、あまりに常識外の有効さを発揮するため、時としてスポーツ指導者が引いてしまうこともあるとのことですが、身体を本当に有効に動かすことはどういうことなのか、今一度検討するいい機会になると思います。

一口紹介

甲野善紀氏は、「人間にとっての自然とは何か」を既成の宗教等によらず、自らの身体感覚で実感することによって、人が生きているということそのものと向き合おうと武の道に入った武術研究者です。

その研究結果は、スポーツ界のみならず、楽器演奏、舞踊、介護医療、工学といった実に多くの分野で応用されております。解剖学者の養老孟司東京大学名誉教授とは二冊の共著を刊行している他、単行本や雑誌で数回に渡り対談し、何度か養老教授の依頼で、児童や生徒への講習会も実施しています。

他にも、スタジオジブリの宮崎駿監督や宇宙飛行士の野口聡一氏、精神科医の名越康文氏などとの交流もあり、最近では、少女漫画の金字塔と言われる『ガラスの仮面』の作者の美内すずえ女史との対談が公刊され、また、美内女史からの依頼による活動も行っています

必見情報 インターネット・You Tube 古武術家「甲野善紀」カラダ革命 古武術バスケット桐朋高校など動画による武術実演と解説が、吉田秀彦、太田光出演はじめ多岐にわたる分野での応用を紹介。